

7 国際交流(学部)

進捗状況報告

○基礎的な状況を継続的に観測する指標				公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考
指標1	国際交流協定締結機関数			公開	○	機関							
指標2	国際交流協定締結国数			公開	○	国							
指標3	海外からの学生の受け入れ	国 数		公開	○	国							
		外国人留学生	正規	公開	○	○	人	143	149	145	139		
			交換	公開	○	○	人	0	0	0	0		
		外国人留学生 在籍学生比率	正規	公開	○	○	%	7.5	7.5	6.9	6.5		外国人留学生÷在籍学生数
			交換	公開	○	○	%	0.0	0.0	0.0	0.0		
その他 (セミナー等による受け入れ)		公開	○		人								
指標4	海外への学生の派遣	国 数		公開	○	国							
		人 数	長期	公開	○	○	人	23	39	38	49		
			短期	公開	○	○	人	38	24	26	49		
		在籍学生比率	長期	公開	○	○	%	1.1	1.9	1.7	2.2		海外へ派遣した学生数÷在籍学生数
			短期	公開	○	○	%	1.9	1.2	1.2	2.2		
指標5	人的国際学術研究交流 (受け入れ教員数)			長期	公開	○	○	人	0	0	0	0	
				短期	公開	○	○	人	3	3	4	3	
指標6	人的国際学術研究交流 (派遣教員数)			長期	公開	○	○	人	0	1	1	1	
				短期	公開	○	○	人	121	109	101	74	
○施策の目標の達成度を測る指標				公開/非公開	全学的な視点	個別的な視点	単位	2004	2005	2006	2007	2008	備考
指標7	国連ボランティア(UNV)の参加者数			公開	○	人							
<small>注) 全学的な視点、個別的な視点について 全学的な視点とは国際教育協力センターの進捗状況報告シートに表示される項目 個別的な視点とは各学部の進捗状況報告シートに表示される項目 注) 正規、交換について 正規とは学位取得目的、交換は正規以外とする。 注) 長期、短期について 指標4: 1学期以上を「長期」とし、1学期未満を「短期」とする。 指標5・6: 1年間以上を「長期」とし、1年間未満を「短期」とする。 注) 指標4は学部、研究科を合わせた数とする。</small>													

総合的に、総合政策学部の学生の国際交流や海外留学への関心はきわめて高い。学部では、外国語、特に英語学習に対する高いモチベーションを持った学生や国際交流や国際問題などに対する関心を持った学生にとって有益な教育プログラムを提供できるように努力しており、とりわけ、2009年度に開設される国際政策学科は、こうした関心を持った受験生の注目を集めることができると期待している。実際、受験生にとっても、総合政策学部の特色としての国際性は、きわめて認知度が高い。今後も、この特色を維持していけるように努力していきたい。

2008年度は、インドネシア交流セミナー参加者は4名(参加総数12名)、国連セミナー参加者は9名(21名)、オックスフォード大学ジョイントセミナー参加者は3名(18名)、UNITeSボランティア参加者は、1名(2名)、英語中期留学参加者は、20名(90名)、フランス語中期留学参加者は1名(14名)である。

学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

「国際開発戦略リサーチセンター」の代表者の教員が、現在、国連機関へ出向中であり、今後に向けて、新たな構成員を迎えてさらに活性化させる準備を行っているところである。

学内第三者評価

総合政策学部の国際交流は関学のモデルであるが、それをさらに促進させるものとして2003年に構想され、実現した「国際開発戦略リサーチセンター」についての記述が望まれる。また、現状の国際交流をさらに活性化させるための問題点についての記述が望まれる。

なお、学外委員からは以下の意見があった。
 留学生数や学生派遣において関学のリーダー的存在であり国際的認知度も高いが、このところ頭打ちの状況に見えるので、引き続きその増加努力が期待される。国連セミナーなどへの参加度も高く積極的である。交流意欲が高く評価できる。「英語による教育」体制の整備に挑戦してほしい。
 教員交流が一方的で短期派遣に偏っている点について記述が望まれる。